

表2 授業過程

過程	学習内容	学習活動	時間(分)	指導上の留意点	資料
導入	学習目標の確認	はじめ 本時の学習のねらいを確認	3	前時の課題提出により、グループを編成させ、改善案を発表できるように指導し、図表等を用意させておく	
展開	我が家の献立 課題発表 ○青年中心の献立	我が家の献立(青年中心)発表 不足をたしかめる 補説	10	○できるだけ実物を用意させ、重量を量る ○自分の食生活の反省をさせ、円型グラフによって、その不均衡な点を思いださせる ○青年期の特性を反復学習して、注意点をあげさせる ○食品の価格にもよれ適正な食費の使い方を知らせる	グループ発表 資料 プリント OHP 食品実物
	○老人を含む家族の献立	我が家の献立(老人を含む)発表 不足をたしかめる 補説	10	○改善案を発表、比較検討する ○自分の家の献立の反省点をあげさせる ○老人の特性を反復学習して、注意点をあげさせる ○老人のいる家族の献立改善案を発表させ、くふうのしどころを知らせる	グループ発表 資料 プリント OHP 食品実物
	○健康と四群点数法	我が家の献立(4群点数法)発表 四群点数法がわかったか 補説	10	○いつまでも健康で生活するための簡易食品摂取法としての四群点数法を知らせる ○四群点数法による献立のたて方を復習し、カロリーをおさえ、老後の肥満を防ぎ、健康を保つ食事法について発表させる ○H・Pへ発展させる	発表資料 プリント OHP 食品実物
食生活の経緯と食生活の周期	各々の発表をまとめる	7	○各グループの発表を合わせて、食生活の経緯と、食生活の周期をまとめる ○前期の学習及び本時の発表によって得た知識や技術を生かして、自分の家の献立改善案を作らせる ○机間巡視 ○時間内にできない所は、課題とする ○後日提出させ学習の定着状況をたしかめる	家族の献立作成上の特長として のポイント図表 (色別) 新婚期(新婚、出婚) 初期(幼少期、児童期) 中期(青年期、成人期) 後期(老年期)	
よい献立改善案作り	自分の家の改善案を作る	10		食生活の周期	
終結	次時の予告	次時の学習予告			

じて、いつまでも長生きしてもらいたいの娘心を盛り込んだ発表であった。図表等もよく、点数法の理解に役立ち、生徒の中には肥満ぎみなのでこの点数法を研究してみたいなどなかなか好評であった。いずれも、調理した実物を準備し、重量等についての学習もなされたと思われる。

○「食生活の周期」としてのまとめは、教材を精選集約し、本時の学習のねらいを明確にとらえさせるくふうとして、家族の献立作成上の特色をそれぞれ色別用紙にまとめ、視覚にうったえ学習効果をあげようという意図で授業中に使用した。また生徒の発表の中にも利用させ、学習のフィードバックの効果もねらったことは効果的であった

と思う。

○食品の概量、重量の学習の機会を多くもたせようと思い、実物の提示をさせたが、教師が思っていたほどたいへんではなく、よく準備していた。他人の用意したのを見るだけでは力はずかず、自分が手がけ苦労して用意することに学習の定着の効果を期待した。

○各グループは、短い研究時間にもかかわらず教師の思うペースにのりよく活動した。発表を終わらせた生徒の顔は、いずれも明るく楽しいふんい気であった。発表を通して、総合的に考えていく力をつけさせたいと願ひ指導にあたったが、いちおうの成果はみられたのではないかとと思われる。

養護教育



本時の発表は、三グループだけにとどめ、他のグループは、資料、実物の展示によって発表にかえたが、他のクラスでは、時間がかかっても全グループ発表させ効果的であった。生徒の活動がここまで深まってきたので、途中で終ることなく配当時間を多く取るくふうをし、指導計画をもう一度見なおしたい。

と団子鼻との間に無数の変化があるように、ぼくらの気持ちや行動の仕方は複雑だ」と言わしめていた。ヒトの行動は、アポロ計画で実施された前人未踏の月面探索から、ヒステリーの発作で失心してしまう、否、それどころか生命活動の終止にいたる行動種まで千態万様の行動型をあげることができ

る。

以下、簡明を期すため、行動種の描写を文芸作品に求め、それらを調整度の面から少し解説していくこととする。

(一) 寝食を忘れて死に至る

日本列島の消滅を目前にして、D12計画(日本人国外避難計画)のメンバーに加わった社会学者の福原教授らが政府要人と学者グループの間をとりもつ正体不明の老人にその報告書を提出したあと、次のように描かれている。

「あの…」と記録係の男がいった。「もし、よろしかったら、先生方を休ませてさしあげていただけませんか?」何しろ、不眠不休だったので……」

(中略)

「花枝……」老人は、強い声でいった。「すぐ医者を呼べ。あの三人の診察をさせろ」

老人はすぐ花枝と書類をもって東京へ行くことにした。出発の準備をして門のところまで老人の車椅子をおしてくると(中略)、背後からあわただしい足音が聞こえ、花枝という娘がだだならぬ血相で車にかけよってきた。

はじめに

前回、コミュニケーションの状況において発信、受信される信号系を構成原則による分類とこれにかかわるいささかの解説を試みた。ここでは、ある生体にある時ある行動種が発現して、それが強力に進行するときは、その生体において特定の主体的条件と、特定の環境的条件とが相伴っていると仮定して、生体系内外の特定状態を信号源とした諸信号の処理、配合の条件規定を受けておこる行動体制種について概観してみようと思う。

一、文芸作品のなかの生命過程の描写

ゲーテは、ウエルテルをして「驚鼻